

ソウルの地下鉄車内風景

昨年秋定年退職者のための国際老人福利シンポジウムにパネリストとして招かれ、ほぼ 30 年ぶりに韓国を訪れた。その折り首都ソウル市内で初めて地下鉄に乗る機会があった。市内を縦横に走る地下鉄が市民の大切な足として、その重要性和高い利便性を誇っていることは、利用してすぐ分かった。

まず感心したのは、地下鉄が高齢者を優遇していることだった。65 歳以上の乗客は何と運賃が無料なのである。どんな福祉サービスよりも実利的で便利な交通機関の無料サービスはお年寄りにとっては大助かりである。他の国鉄路線は3割引きの運賃(これでも会費なしで、日本の「ジバングクラブ」と同じ割引率)であるが、外国人である私も運賃無料の恩恵に与ることになった。

しかし、驚いたのは電車が駅を離れるや、物売りが車内に入れ替わり立ち代り現れては、こそこそと小声で商売を始めることである。これには呆気にとられた。地下鉄から許可を得たのならともかく、ほかの外国の地下鉄だって商売をやるのは、大体駅構内に決まっている。ところがソウルでは禁制を犯して車内にまで乗り込んで来るのである。駅を発車すると物売りが大きなカバンから商品を取り出しそれをかざしながらセールスを始める。売れないと見るや、さっと店仕舞いをして次の車両へ移動していく。すると他の物売りがやってきて別の品物を手にセールストークを始めるのである。終戦直後の日本の満員列車の中でもそうだった。何となくノスタルジアを感じるから不思議である。

ガイドに聞くと地下鉄では時折係員が巡回しては排除しているようだが、ゴキブリのように現れては、違反の物売りや地下鉄の間でイタチごっこが繰り返されているそうだ。

座っていた私の隣のシートをふと見ると名刺大のチラシが置いてあった。ガイドに尋ねるとハングル文字で書かれた表面には「人材募集」と書かれてあった。これも禁じられた静かなセールスなのだろう。